

道路技術小委員会 各分野会議からの報告

道路技術小委員会 土工分野会議報告

道路技術小委員会 土工分野会議 座長報告

◇ 道路土工構造物の被災・点検状況、新たな知見を踏まえた点検・診断の効率化・精度の向上、災害に強い国土幹線道路ネットワークの確保に向けた耐災害性能の評価について、土工分野会議において、専門的見地から検討したので、その状況を報告する。

◇ 土工分野会議の論点として、

① 道路土工構造物点検要領の改定(暫定版)

② 道路リスクアセスメント要領(案)の策定

などについて、審議を行ってきた。

◇ これらの検討事項について、土工分野会議では、以下のような意見があった。

【土工分野会議における主な意見】

① 道路土工構造物点検要領の改定(暫定版)

- ・設計時の地質・地盤リスクや施工時の変状事例を維持管理に活かすことが必要である。
- ・河川隣接区間における特定土工点検対象箇所抽出方法を解説文に丁寧に記載したほうがよい。
- ・同一断面で防災点検箇所と道路土工構造物点検箇所が重なるところがあり、点検時には相互の連携(情報交換)が必要である。
- ・現場での試行に際して、道路区域内における防災カルテ点検箇所の取り扱いを分かりやすく説明したほうがよい。

② 道路リスクアセスメント要領(案)の策定

- ・リスク評価のために設定する道路構造断面について、適正な位置設定の留意点を明示しておく必要がある。
- ・リスク評価を行う際、設計基準類の性能と関連付けることが必要である。

◇ 以上の意見を踏まえ、「道路土工構造物点検要領の改定(暫定版)」と「道路リスクアセスメント要領(案)」を策定した。

◇ 今後、道路土工構造物点検要領の改定(暫定版)について、継続して取り組むべき課題として、以下のような意見があった。

- ・河川隣接区間において、特に水衝部などの点検に苦慮している。河川管理者と協同するとともに、新技術を活用し、省力化につながるような情報を紹介してほしい。

◇ 今後、道路リスクアセスメント要領(案)の策定について、継続して取り組むべき課題として、以下のような意見があった。

- ・リスクアセスメントの意義を高めるためには、リスクに対する対応方針の具体化を図るなどし、リスクアセスメントをするだけでなく結果の活用まで結びつけていく必要がある。
- ・設計基準類の改定、充実により、リスク評価の精度の向上に努める必要がある。
- ・データ蓄積などを通して、各道路区間における固有な地域の地質や地形等の実態を反映できるリスク評価にしていく必要がある。

道路技術小委員会 道路土工構造物分野会議

【有識者】

◎ 常田 賢一 大阪大学大学院 名誉教授

◎座長

笹原 克夫 高知大学 教育研究部 自然科学系農学部門 教授

【実務委員】

酒井 亮太 気象庁 大気海洋部 気象リスク対策課 防災気象官

中谷 洋明 国総研 土砂災害研究部 土砂災害研究室長

辻井 伸治 奈良県 県土マネジメント部 道路保全課 主幹

中原 伴章 三重県三重郡菰野町 都市整備課 工務係長

山田 直樹 新潟県十日町市 建設部 建設課長

竹本 将 (株)高速道路総合技術研究所 道路研究部

斜面防災研究担当部長

岩切 昭義 日本測量調査技術協会((株)パスコ)

上野 将司 全国地質調査業協会連合会((株)応用地質)

大粒来茂樹 建設コンサルタンツ協会(国際航業(株))

大崎 義保 国土交通省中部地方整備局 道路部道路管理課 課長補佐

【審議状況】

第 9回 令和2年 9月17日

第10回 令和2年10月30日

第11回 令和3年 6月28日

第12回 令和3年 9月 8日

第13回 令和4年 2月 2日

第14回 令和4年 3月 8日

道路技術小委員会 橋梁分野会議報告

道路技術小委員会 橋梁分野会議 座長報告

- ◇ 「道路リスクアセスメント要領(案)」の策定にあたり、「橋梁分野会議」において、専門的見地から検討したので、その状況を報告する。
- ◇ 橋梁分野会議の論点として、
 - ① 道路リスクアセスメント要領(案)の目的・位置付け
 - ② 道路のリスク評価の考え方などについて、審議を行ってきた。
- ◇ これらの検討事項について、橋梁分野会議では、以下のような意見があった。

【橋梁分野会議における主な意見】

①道路リスクアセスメント要領(案)の目的・位置付け

- ・本要領(案)の目的が、激甚化・頻発化する気象災害に対する防災計画等とは異なり、被災想定の結果や活用の位置付けが異なることについて、明確にする必要があるのではないか。
- ・想定するハザードを通常の道路管理で想定する規模や種類としている点について、明確にする必要があるのではないか。

②道路のリスク評価の基本的な考え方

- ・道路のリスクについては、道路機能の低下の度合いと回復時間の二軸あることから、本要領での取扱を明確にする必要があるのではないか。
- ・道路のリスクを相対的に評価するにあたって今あるデータを活用し、機械的・簡便に評価していくことは理解できる一方、詳細な方法により評価する場合の取扱を明確にしておく必要があるのではないか。

- ◇ 以上の意見を踏まえ、「道路リスクアセスメント要領(案)」を策定した。
- ◇ 今後、継続して取り組むべき課題として、以下のような意見があった。

【橋梁分野会議における主な意見】

- ・リスクアセスメントを行うことで道路の性能の現状が把握できるようになるが、それが、対応の優先順位や方法にどのようにつながるのか示していく必要がある。
- ・リスク評価結果と老朽化対策も含めたマネジメントのあり方についても議論していく必要がある。
- ・激甚化・頻発化する気象災害に対する対応を考えるためには、想定するハザードの種類を増やして行くことも想定するのがよいのではないか。
- ・今回は改良を主な対応と想定した要領になっていると考えるが、ハザードの種類や規模によっては改良だけでない対応が合理的になると考えられる。今回、対象としなかった災害の種類や規模に対しても総合的に対応していく必要がある。
- ・道路として性能やリスクを評価するためには各構造物の信頼性が統一的な体系で評価、比較できる必要がある。先行する道路橋以外の構造物についても、設計基準の性能規定化を進めるべき。
- ・既設道路橋について、概略の性能評価だけでなく、詳細かつ的確に性能評価を適切に行うための方法論も示していく必要がある。

道路技術小委員会 橋梁分野会議

【有識者】

◎ 勝地 弘 横浜国立大学都市イノベーション研究院 教授

◎:座長

秋山 充良 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授

穴見 健吾 芝浦工業大学工学部土木工学科 教授

小野 潔 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授

鎌田 敏郎 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻
社会基盤工学部門 教授

高橋 章浩 東京工業大学環境・社会理工学院 教授

那須 清吾 高知工科大学経済・マネジメント学部 教授

宮里 心一 金沢工業大学工学部環境土木工学科 教授

【実務者】

西村 逸夫 関東地方整備局道路部道路保全企画官

本間 信之 東京都建設局道路管理部橋梁構造専門課長

藤澤 悟 大阪市建設局道路部橋梁課長

村田 正志 宮城県大崎市建設部参事兼建設課長

田食 晃隆 島根県奥出雲町建設課課長補佐

安川 義行 東日本高速道路株式会社技術本部総合技術センター
エキスパート(構造物)

益子 直人 首都高速道路(株)技術部構造技術室設計技術課長

茂呂 拓実 阪神高速道路(株)技術部技術推進室長

西谷 雅弘 本州四国連絡高速道路(株)長大橋・技術部
総括・耐震・耐風グループリーダー

岩立 次郎 (株)高速道路総合技術研究所道路研究部橋梁研究担当部長

【審議状況】

第11回 令和2年 9月18日

第12回 令和2年12月17日

第13回 令和4年 2月 7日

第14回 令和4年 3月 4日